



TITLE:

Miss Cannonを語る

AUTHOR(S):

古畑, 正秋

---

CITATION:

古畑, 正秋. Miss Cannonを語る. 天界 1941, 21(245): 336-337

ISSUE DATE:

1941-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168282>

RIGHT:

## Miss Cannon を語る

古 畑 正 秋

私がハーヴドを發つたのが去る二月 11 日、その朝、天文臺で“左様なら”の握手をした時には、全くいつもと變らない元氣さであつたのだが、それから二ヶ月して、急に死去された由を最近知つて、老齡だつたとは言へ、一寸想像出来なかつただけに、まだ噓の様な氣がしてならない。別れ際に、“平山博士、山本博士等々皆んなに是非宜しく”と一生懸命に言つてゐたが、それ程 Miss Cannon は日本にも親しい人が多いので、Miss Cannon が残した學界への功績からといふよりも、個人的親しさから、一段の愛情を感じられる方が多いことと思ふ。

私なども、ハーヴド滞在中、3ケ年近く、毎日一緒にゐて、而かも、大事にしてくれるので、いゝ氣になつて、“此の本を貸してくれ”“あの表を探してくれ”“此の星のスペクトル型を見てくれ”と、なり放だい厄介になつてゐたので、色々感慨深いものがある。握手をし乍ら、“又いつか來ますからね”と言ふと、“さうとも、さうとも”と、元氣よく答へて、笑ひながら別れて來たのだつた。

もう 80 に近い高齢であつたから、勿論もういゝ年であるといふ感じはしたし、それに、耳が大分遠くなつてゐたので、大きな聲を出さなければならぬのが、始め英語に不慣れた私には苦手だつたけれども、日一日と經つにつれて、實に“いゝお婆さんだなあ”といふ感じがして來た。全く、Miss Cannon ぐらい、天賦の性質のよさで、天文臺の内外の人々から親しまれてゐた人はあるまいと思ふ。Shapley, Bok 等の追悼の言葉にも、Miss Cannon が、天文學上に残した足跡と同じ位に、その人柄を稱揚してゐるのも、全く無理からぬところであらうと思ふ。小さい時から不自由なく育てられて、學問に對する懂がれだけを追つて、生地デラウェア州から、當時としては異色の女子教育を受けにウェルズリー女子大學に入り、卒業後、數年して、ハーヴド天文臺で、スペクトル分類の仕事を始め、それから 40 年餘り、星と共に暮して來た生涯であつたのだが、恐らく持つて生れた性質と環境とが、あの人となりを造りあげたものであらうと思はれる。

天文臺に於ても、全く一家の老母の如く扱はれてゐた。Shapley 臺長にしても、丁度自分の親の様にして、いたわつてゐるのに、私は、何度感激したか分らない。談話會などには缺かさず出て來て、最前列に坐つて、一生懸命に話を聽いてゐる。アメリカ天文學會などにも缺かさず出席してゐるといふ程で、恐

らく、死の直前まで、星とのつながりを保つてゐたことだらうと思ふ。此の意味に於て、誠に幸福な一生だつたと言へると思ふ。

Miss Cannon の交際好きは有名で、どんな會合にも必ず顔を見せて賑かにしてゐる。ダンス・パーティなんかにも、ちやんと出て来て、若い者の踊るのを嬉しさうに眺めてゐるといふ有様であつた。勿論、自分では“もうだめだ”と言つて、人が勤めても踊りはしなかつたが、唯一度、Gaposchkin が無理に引張り出したので、少し歩いてみたことがあつた。ピクニックなどにも、我々と一緒に出掛けて行く。天文臺が自分の家であり、我々が子供であり、孫であつた。私は、幸か不幸か、死去の際は居なかつたのであるが、恐らく、その“子供”だの“孫”だのに見守られて、何の思ひ残すところもなく、世を去つたものと想像してゐる。

老齡であつたから、勿論若い者と同じ様に朝早くから夕方迄天文臺で仕事をしてゐる程でもなかつたが、それでも、10時頃には出掛けて来て、何時間か仕事をしてゐた。最近でも、ずつと Henry Draper カタログの續編を作つてゐたのであるが、経験と熟練とに依つて、高齡と雖も以前と變りない業績をあげてゐた。普通の星のスペクトルであれば、殆ど一見して、4,5秒でその型を決定出来るし、少し變つたものでも、30 秒もかゝれば、充分だと言ふことであつた。斯くして、現在までに30萬に餘る星のスペクトル型を決定して、天體物理學の糧を作つたことは、天文學への主婦として餘りにも立派な功績であつた。

こんなことを書いてゐる中に、私は天文學史上、有名な女流天文學者としてウィリヤム・ハーシェルの妹カロリンを思ひ出した。そしてハーシェルを助け、當時の天文學への主婦として、あの輝かしい業績を残したカロリンは恐らく Miss Cannon の様な人柄であつた様な氣がしてならない。今、カロリンと並び數へてよいだらうと思ふ。Miss Cannon についても、我々の死後、その人柄を傳へ聞かす人がなくなつても、あの Henry Draper カタログを繙く人は必ず Miss Cannon の人柄の何物かを感ずるに違ひなからうと思ふのである。

(本號口繪参照)

(終)

## 正 誤 表

第244號(昭和16年十月號)

	誤	正
第320頁	下より8行目の英文	arc:
第322頁	下より7行目以下7行は同頁上より5行目と6行目との間に入れる。	are:
第326頁	黒點報告の日數と平均、寺崎氏は15日64個、竹内氏は8日70個、坂上氏は3日78個、と訂正。	
第(357)頁	14行目、海王星表	81日9時
〃	15行目、冥王星	夕の中天に在り
第(358)頁	下より5行目、金星の視直徑	時20.2''
		31日9時 曉の中天に在り 末20.2''